

# 1 昼間・夜間人口、昼夜間人口比率

**=昼間人口は1,558万人、夜間人口は1,316万人=**

東京都の昼間人口は15,576,130人となり、夜間人口は13,159,388人、昼夜間人口比率は118.4となっている。

区部の昼間人口は港区の886,173人が最も多く、次いで千代田区819,247人、世田谷区812,810人の順となっており、夜間人口は世田谷区の877,138人が最も多く、次いで練馬区716,124人、大田区693,373人の順となっている。

また、昼夜間人口比率は千代田区が1,738.8と最も高く、次いで中央区493.6、港区432.0の順となっている。

市部の昼間人口は八王子市の578,039人が最も多く、次いで町田市388,575人、府中市246,380人の順となっており、夜間人口は八王子市の580,053人が最も多く、次いで町田市426,987人、府中市255,506人の順となっている。

また、市部の昼夜間人口比率は立川市が113.1と最も高く、次いで武蔵野市110.5、八王子市99.7の順となっている。

郡島部の昼間人口は瑞穂町の36,272人が最も多く、次いで日の出町15,959人、大島町8,490人の順となっており、夜間人口は瑞穂町の33,497人が最も多く、次いで日の出町16,650人、大島町8,461人の順となっている。

また、郡島部の昼夜間人口比率は瑞穂町が108.3と最も高く、次いで青ヶ島村104.0、小笠原村・利島村102.1の順となっている。

(表1-1~4、図1~2、統計表第1表)

表1-1 地域別、昼間・夜間人口、昼夜間人口比率 (人)

地域	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
東京都	15,576,130	13,159,388	118.4
区部	11,711,537	8,945,695	130.9
市部	3,776,318	4,127,128	91.5
郡島部	88,275	86,565	102.0

表1-2 昼間・夜間人口、昼夜間人口比率の多い区部 (人)

順位	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
1	港区 886,173	世田谷区 877,138	千代田区 1,738.8
2	千代田区 819,247	練馬区 716,124	中央区 493.6
3	世田谷区 812,810	大田区 693,373	港区 432.0
4	新宿区 750,120	足立区 683,426	渋谷区 254.6
5	大田区 684,451	江戸川区 678,967	新宿区 229.9

表1-3 昼間・夜間人口、昼夜間人口比率の多い市部 (人)

順位	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
1	八王子市 578,039	八王子市 580,053	立川市 113.1
2	町田市 388,575	町田市 426,987	武蔵野市 110.5
3	府中市 246,380	府中市 255,506	八王子市 99.7
4	立川市 203,252	調布市 223,593	多摩市 98.6
5	調布市 195,986	西東京市 196,511	国立市 97.5

表1-4 昼間・夜間人口、昼夜間人口比率の多い郡島部 (人)

順位	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
1	瑞穂町 36,272	瑞穂町 33,497	瑞穂町 108.3
2	日の出町 15,959	日の出町 16,650	青ヶ島村 104.0
3	大島町 8,490	大島町 8,461	小笠原村 102.1
4	八丈町 8,258	八丈町 8,231	利島村 102.1
5	奥多摩町 5,747	奥多摩町 6,045	御蔵島村 102.0

図1 昼間人口

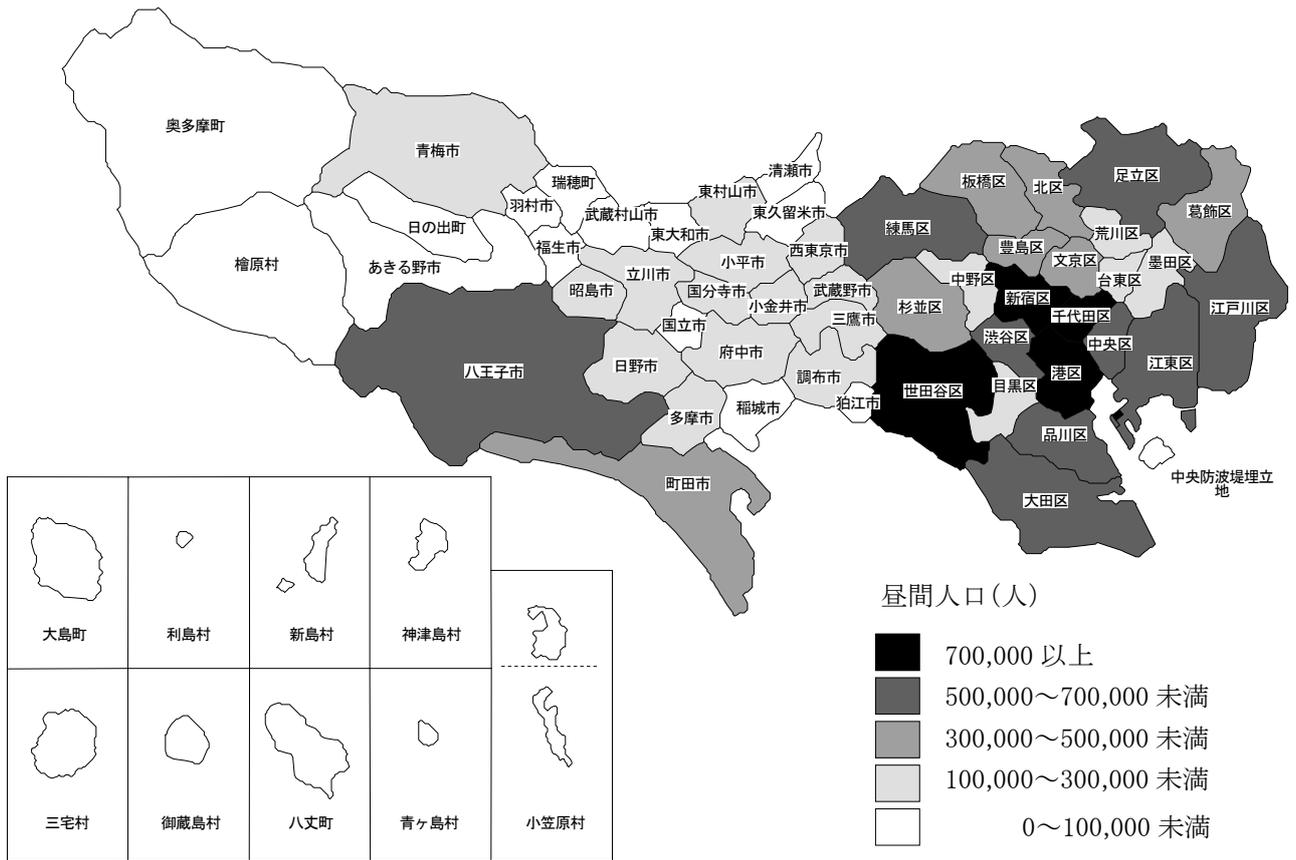
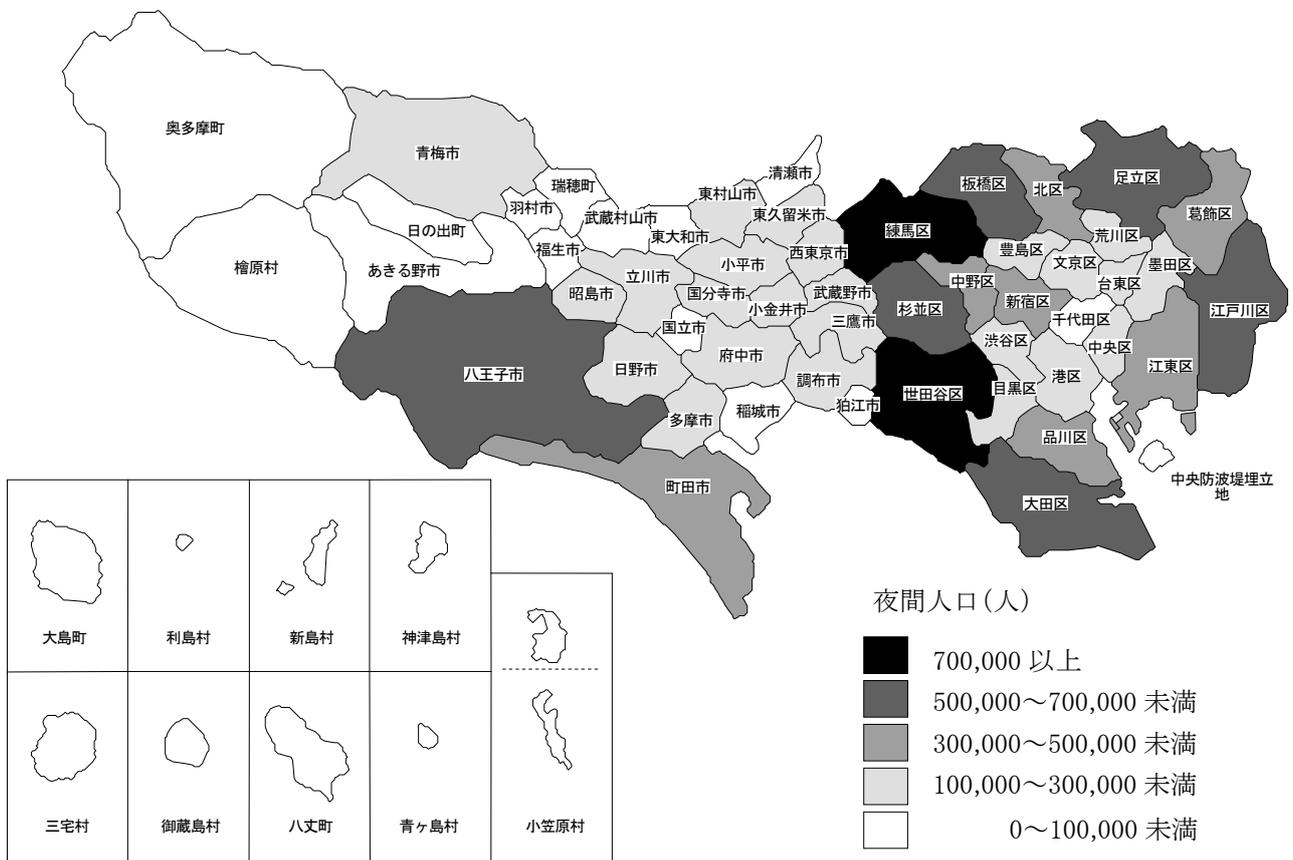


図2 夜間人口



## 2 就業者（15歳以上）及び通学者

＝昼間就業者は減少、夜間就業者は増加、通学者は昼間・夜間ともに増加＝

### (1) 就業者

昼間就業者は8,174,125人で、平成17年（以下、「前回調査」という。）に比べ31,175人（増減率△0.4%）減少している。また、夜間就業者は6,012,536人で、前回調査に比べ97,003人（同1.6%）増加している。

区部の昼間就業者は港区の749,814人が最も多く、次いで千代田区725,446人、中央区550,870人の順となっており、夜間就業者は世田谷区の394,885人が最も多く、次いで大田区334,214人、練馬区321,148人の順となっている。

市部の昼間就業者は八王子市の220,436人が最も多く、次いで町田市136,380人、府中市115,949人となっており、夜間就業者は八王子市の253,920人が最も多く、次いで町田市184,278人、府中市120,881人の順となっている。

郡島部の昼間就業者は瑞穂町の19,995人が最も多く、次いで日の出町7,382人、八丈町4,258人となっており、夜間就業者は瑞穂町の16,107人が最も多く、次いで日の出町7,369人、八丈町4,231人の順となっている。

（表2-1～7、図3～8、統計表第2、3の1表）

表2-1 就業者

（人、%、ポイント）

項目	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成17～22年 増減数(増減率)	
昼間就業者	8,627,607	8,769,087	8,507,195	8,205,300	8,174,125	△ 31,175	(△ 0.4)
夜間就業者	6,284,061	6,309,698	6,158,377	5,915,533	6,012,536	97,003	( 1.6)
昼夜間就業者比率	137.3	139.0	138.1	138.7	136.0	△ 2.7	(△ 1.9)

表2-2 昼間就業者が多い区部

（人）

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	港区	749,814	港区	766,591
2	千代田区	725,446	千代田区	755,057
3	中央区	550,870	中央区	595,546
4	新宿区	504,305	新宿区	538,949
5	渋谷区	372,568	渋谷区	390,276

表2-3 夜間就業者が多い区部

（人）

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	世田谷区	394,885	世田谷区	376,593
2	大田区	334,214	大田区	342,925
3	練馬区	321,148	江戸川区	311,625
4	江戸川区	305,225	足立区	306,317
5	足立区	301,583	練馬区	274,192

図3 昼間就業者が多い区部

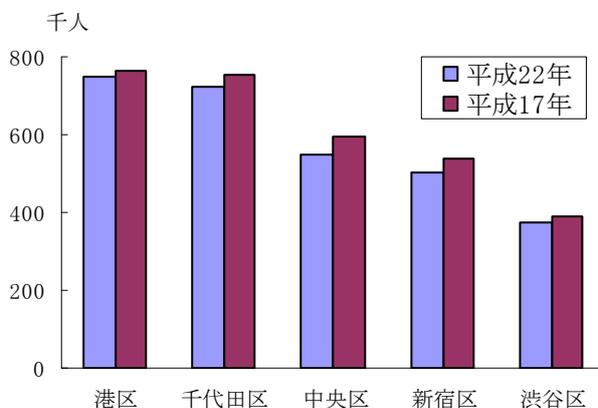


図4 夜間就業者が多い区部

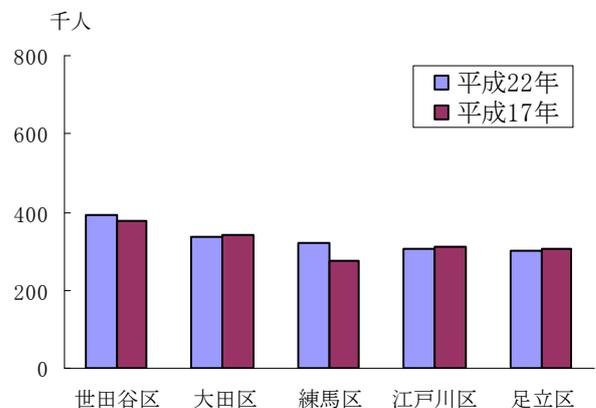


表2-4 昼間就業者が多い市部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	八王子市	220,436	八王子市	217,673
2	町田市	136,380	町田市	132,318
3	府中市	115,949	府中市	112,285
4	立川市	103,041	立川市	104,658
5	調布市	75,888	調布市	72,614

図5 昼間就業者が多い市部

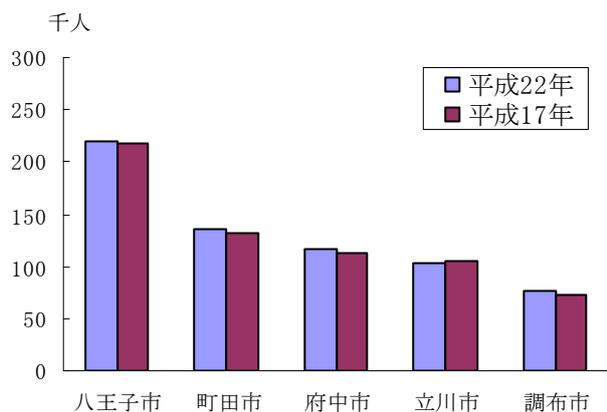


表2-5 夜間就業者が多い市部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	八王子市	253,920	八王子市	257,737
2	町田市	184,278	町田市	185,943
3	府中市	120,881	府中市	117,731
4	調布市	103,489	調布市	100,964
5	西東京市	88,770	西東京市	87,957

図6 夜間就業者が多い市部

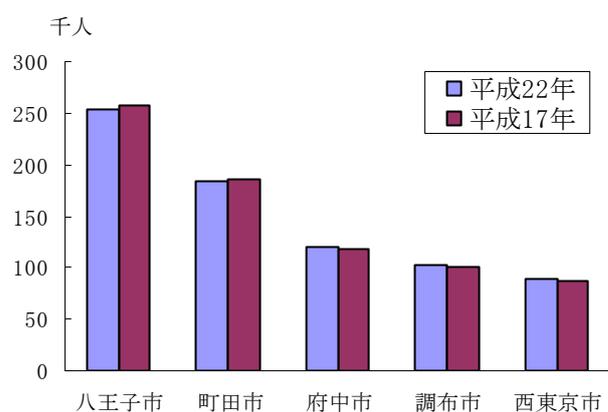


表2-6 昼間就業者が多い郡島部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	瑞穂町	19,995	瑞穂町	20,813
2	日の出町	7,382	日の出町	6,442
3	八丈町	4,258	八丈町	4,522
4	大島町	4,169	大島町	4,375
5	奥多摩町	2,462	奥多摩町	2,698

図7 昼間就業者が多い郡島部

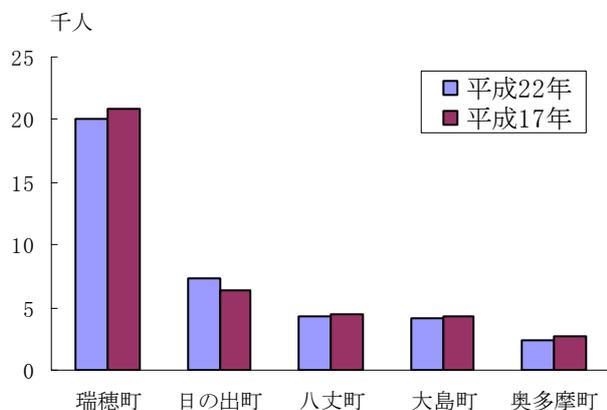
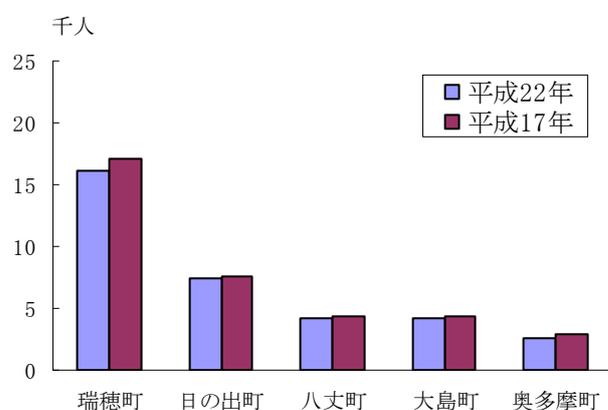


表2-7 夜間就業者が多い郡島部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	瑞穂町	16,107	瑞穂町	17,084
2	日の出町	7,369	日の出町	7,619
3	八丈町	4,231	八丈町	4,429
4	大島町	4,144	大島町	4,302
5	奥多摩町	2,557	奥多摩町	2,962

図8 夜間就業者が多い郡島部



## (2) 通学者

昼間通学者は1,775,247人で、前回調査に比べ45,877人(増減率2.7%)増加している。また、夜間通学者は1,520,111人で、62,768人(同4.3%)増加している。

区部の昼間通学者は世田谷区の129,256人が最も多く、次いで新宿区87,892人、千代田区76,589人の順となっており、夜間通学者は世田谷区の102,582人が最も多く、次いで練馬区89,678人、江戸川区86,945人の順となっている。

市部の昼間通学者は八王子市の119,911人が最も多く、次いで町田市68,758人、府中市29,153人の順となっており、夜間通学者は八王子市の88,439人が最も多く、次いで町田市59,272人、府中市33,348人の順となっている。

郡島部の昼間通学者は瑞穂町の3,488人が最も多く、次いで日の出町1,161人、大島町942人の順となっており、夜間通学者は瑞穂町の4,601人が最も多く、次いで日の出町1,865人、大島町938人の順となっている。

(表2-8~14、図9~14、統計表第2、3の2表)

表2-8 通学者

(人、%、ポイント)

項目	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成17~22年 増減数(増減率)
昼間通学者	2,471,677	2,184,292	1,912,564	1,729,370	1,775,247	45,877 ( 2.7)
夜間通学者	2,093,758	1,806,792	1,611,736	1,457,343	1,520,111	62,768 ( 4.3)
昼夜間通学者比率	118.0	120.9	118.7	118.7	116.8	△1.9 (△1.6)

表2-9 昼間通学者が多い区部

(人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	世田谷区	129,256	世田谷区	118,703
2	新宿区	87,892	新宿区	97,824
3	千代田区	76,589	千代田区	82,591
4	江戸川区	72,264	文京区	71,253
5	練馬区	71,049	江戸川区	66,110

表2-10 夜間通学者が多い区部

(人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	世田谷区	102,582	世田谷区	94,912
2	練馬区	89,678	江戸川区	79,919
3	江戸川区	86,945	練馬区	77,871
4	足立区	78,136	足立区	71,321
5	大田区	71,630	大田区	70,121

図9 昼間通学者が多い区部

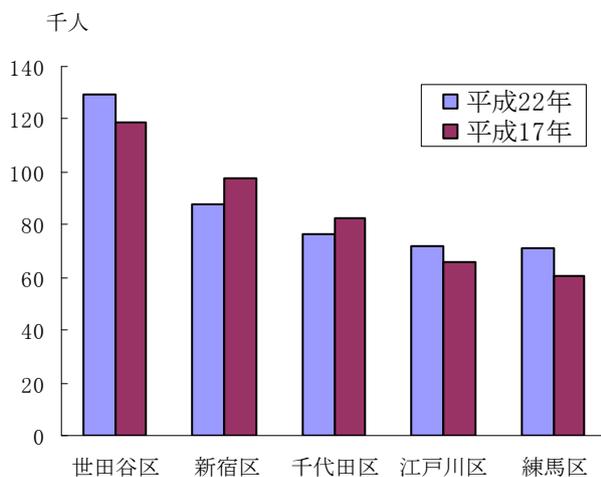


図10 夜間通学者が多い区部

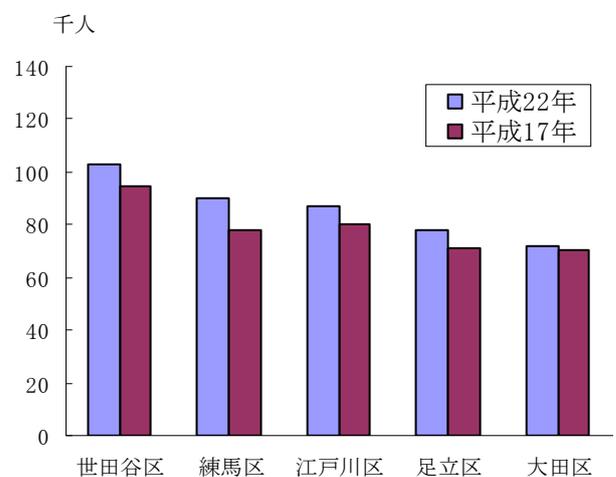


表2-11 昼間通学者が多い市部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	八王子市	119,911	八王子市	119,511
2	町田市	68,758	町田市	68,406
3	府中市	29,153	小平市	28,480
4	小平市	28,837	府中市	27,409
5	調布市	28,254	武蔵野市	27,156

図11 昼間通学者が多い市部

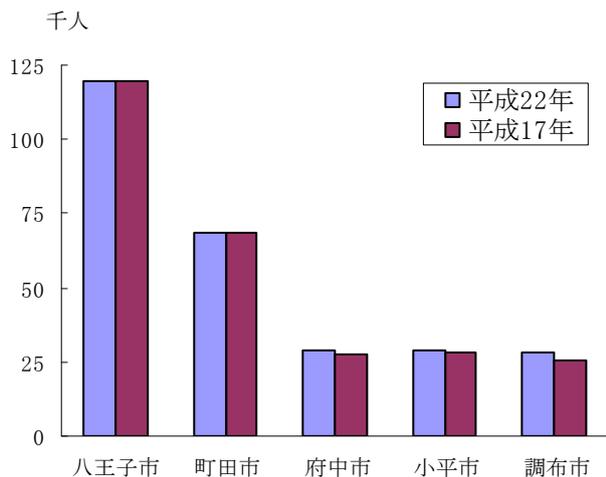


表2-12 夜間通学者が多い市部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	八王子市	88,439	八王子市	86,838
2	町田市	59,272	町田市	55,139
3	府中市	33,348	府中市	31,122
4	小平市	28,456	小平市	27,713
5	調布市	28,259	調布市	26,711

図12 夜間通学者が多い市部

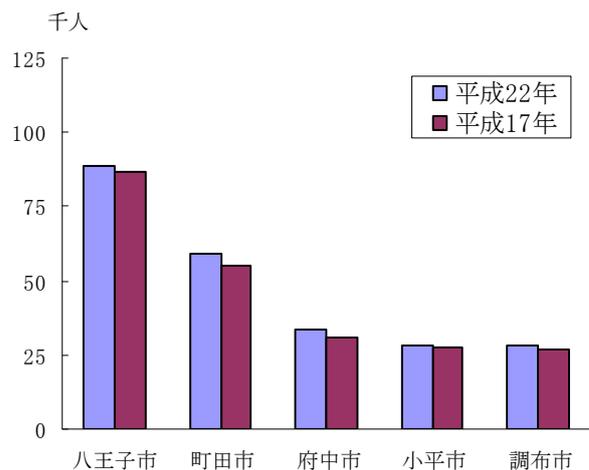


表2-13 昼間通学者が多い郡島部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	瑞穂町	3,488	瑞穂町	3,463
2	日の出町	1,161	日の出町	1,160
3	大島町	942	大島町	934
4	八丈町	776	八丈町	931
5	奥多摩町	293	奥多摩町	366

図13 昼間通学者が多い郡島部

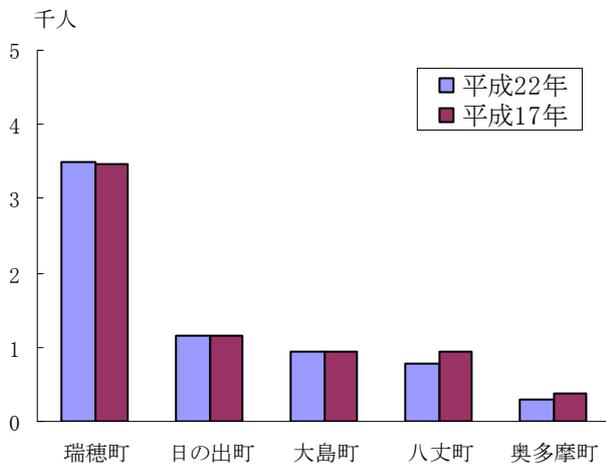
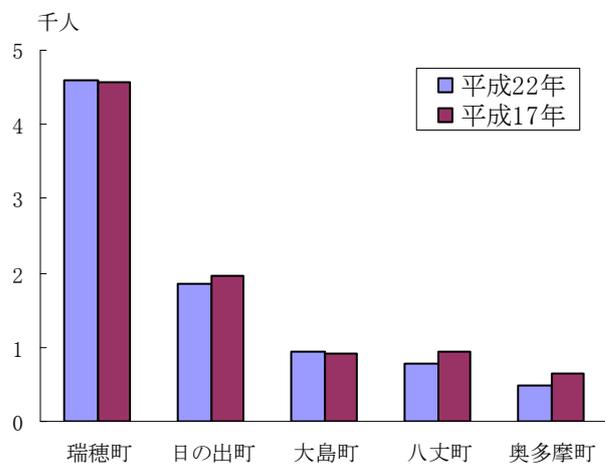


表2-14 夜間通学者が多い郡島部 (人)

順位	区市町村名	平成22年	区市町村名	平成17年
1	瑞穂町	4,601	瑞穂町	4,580
2	日の出町	1,865	日の出町	1,959
3	大島町	938	八丈町	930
4	八丈町	776	大島町	919
5	奥多摩町	496	奥多摩町	638

図14 夜間通学者が多い郡島部



### 3 東京都の流入・流出口

＝流入人口は 289 万人、流出人口は 47 万人＝

#### (1) 東京都への流入

東京都への流入人口は 2,891,112 人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県が 1,049,341 人（構成比 36.3%）が最も多く、次いで埼玉県 948,988 人（同 32.8%）、千葉県 737,360 人（同 25.5%）の順となっており、その 3 県で東京都への流入人口の 94.6%を占めている。

（表 3－1、図 15～16、統計表第 5、7 表）

表3-1 東京都への流入人口(人)

常住地	流入人口
総 数	2,891,112
茨城県	70,868
栃木県	17,485
群馬県	12,227
埼玉県	948,988
千葉県	737,360
神奈川県	1,049,341
その他の道府県	54,843

図15 東京都への流入人口

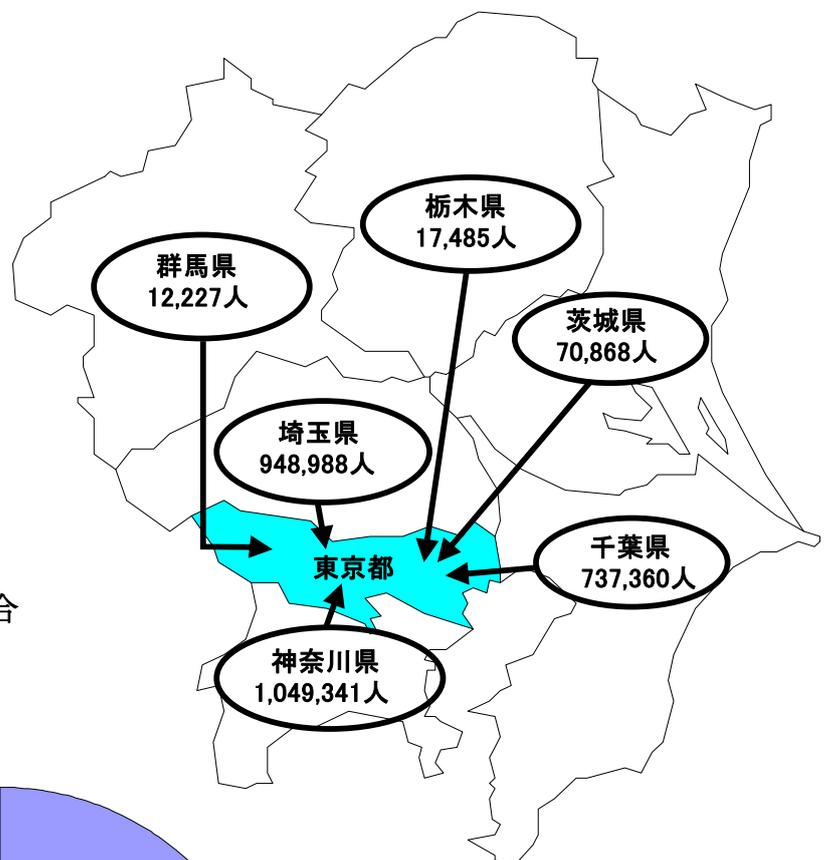
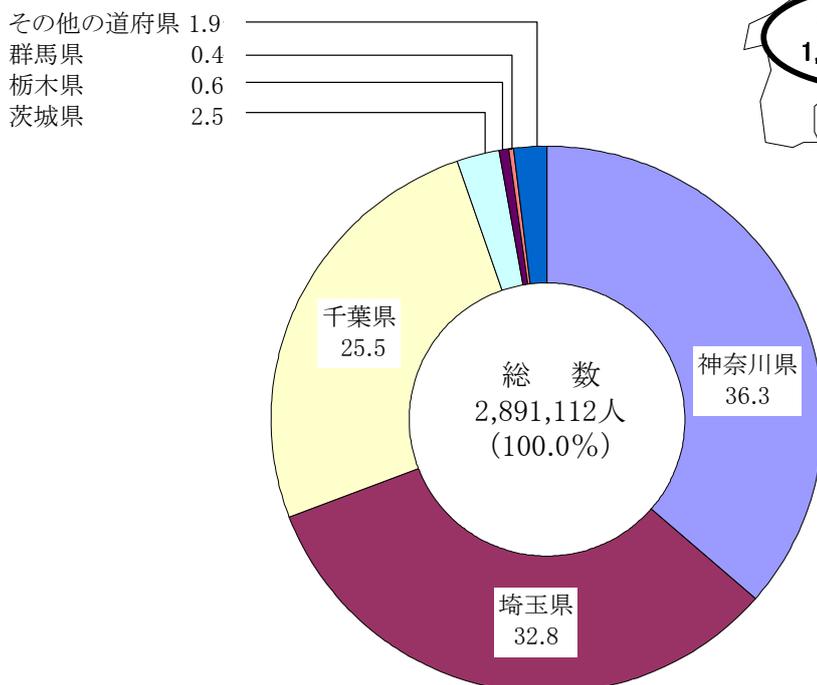


図16 道府県別流入人口割合



## (2) 東京都からの流出

東京都からの流出人口は474,387人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県228,981人（構成比48.3%）が最も多く、次いで埼玉県137,790人（同29.0%）、千葉県80,875人（同17.0%）の順となっており、その3県で東京都からの流出人口の94.3%を占めている。

（表3-2、図17~18、統計表第5、7表）

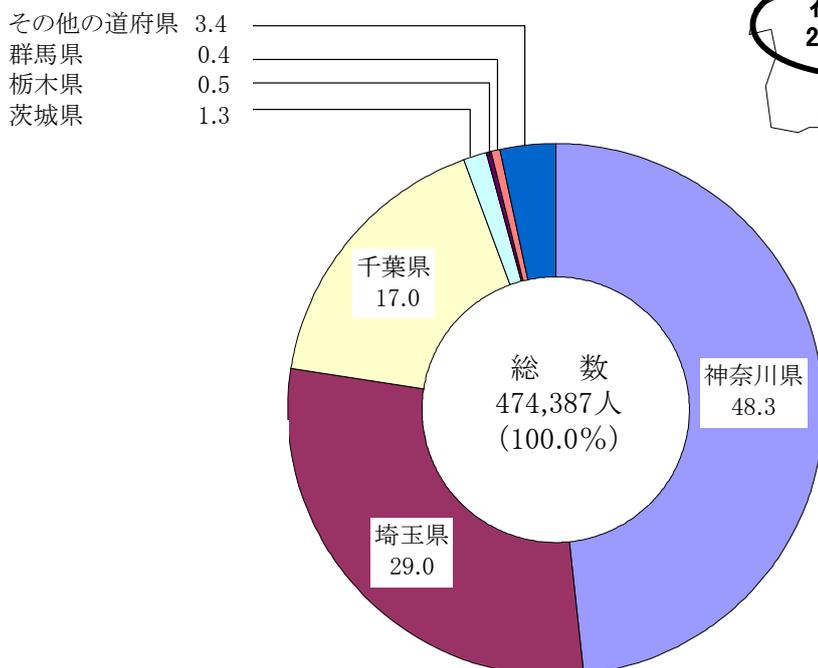
図17 東京都からの流出人口

表3-2 東京都からの流出人口(人)

従業地・通学地	流出人口
総数	474,387
茨城県	6,265
栃木県	2,467
群馬県	1,892
埼玉県	137,790
千葉県	80,875
神奈川県	228,981
その他の道府県	16,117



図18 道府県別流出人口割合



## 4 区部の流入・流出口

＝区部への流入人口は 317 万人、区部からの流出口は 40 万人＝

### (1) 区部への流入

区部への流入人口は 3,169,416 人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県が 904,659 人が最も多く、次いで埼玉県 860,171 人、千葉県 723,054 人の順となっている。

都内市町村から区部への流入人口は 542,974 人となり、市町村別で見ると、調布市の 48,044 人が最も多く、次いで町田市 45,839 人、西東京市 43,816 人の順となっている。

(表 4-1～2、図 19～20、統計表第 6 表)

図19 区部への流入人口

表4-1 区部への流入人口 (人)

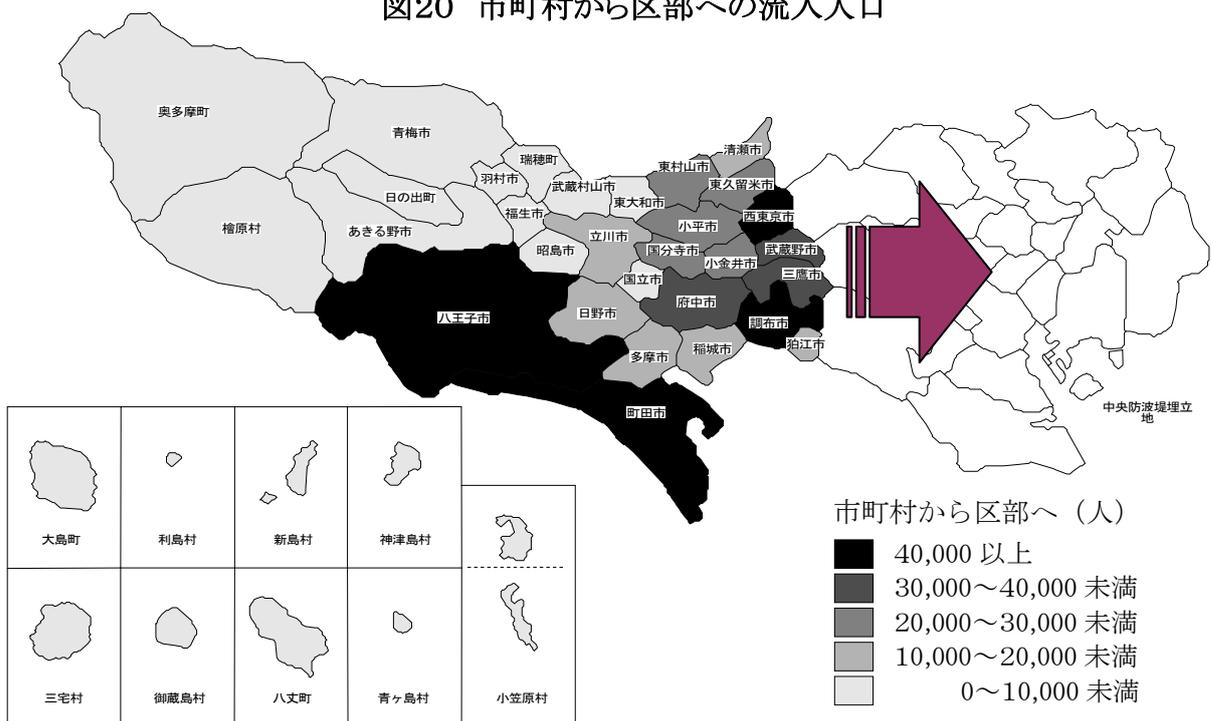
常住地	流入人口
総数	3,169,416
茨城県	68,504
栃木県	16,445
群馬県	11,050
埼玉県	860,171
千葉県	723,054
神奈川県	904,659
その他の道府県	42,559
都内市町村	542,974



表4-2 市町村から区部へ (人)

順位	市町村	流入人口
1	調布市	48,044
2	町田市	45,839
3	西東京市	43,816
4	八王子市	42,752
5	三鷹市	37,484

図20 市町村から区部への流入人口



## (2) 区部からの流出

区部からの流出人口は 403,594 人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県 116,891 人が最も多く、次いで埼玉県 91,030 人、千葉県 74,281 人の順となっている。

区部から都内市町村への流出人口は 103,501 人となり、市町村別で見ると、武蔵野市の 16,276 人が最も多く、次いで八王子市 12,417 人、調布市 9,711 人の順となっている。

(表 4-3~4、図 21~22、統計表第 6 表)

図21 区部からの流出人口

表4-3 区部からの流出人口 (人)

従業地・通学地	流入人口
総数	403,594
茨城県	5,289
栃木県	1,894
群馬県	1,288
埼玉県	91,030
千葉県	74,281
神奈川県	116,891
その他の道府県	9,420
都内市町村	103,501

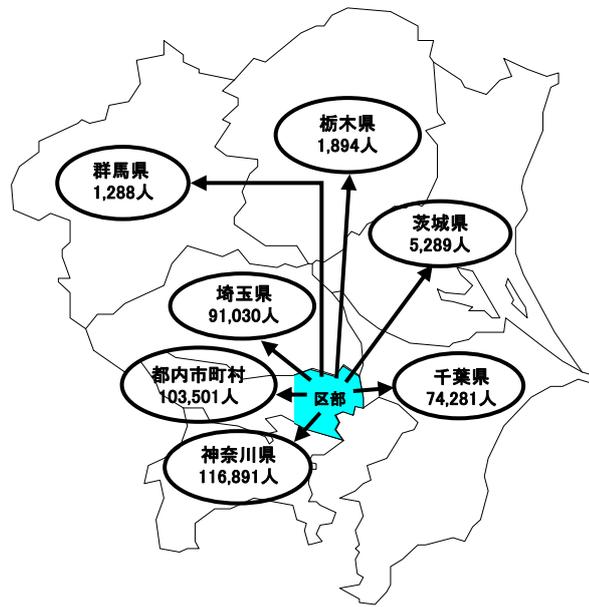
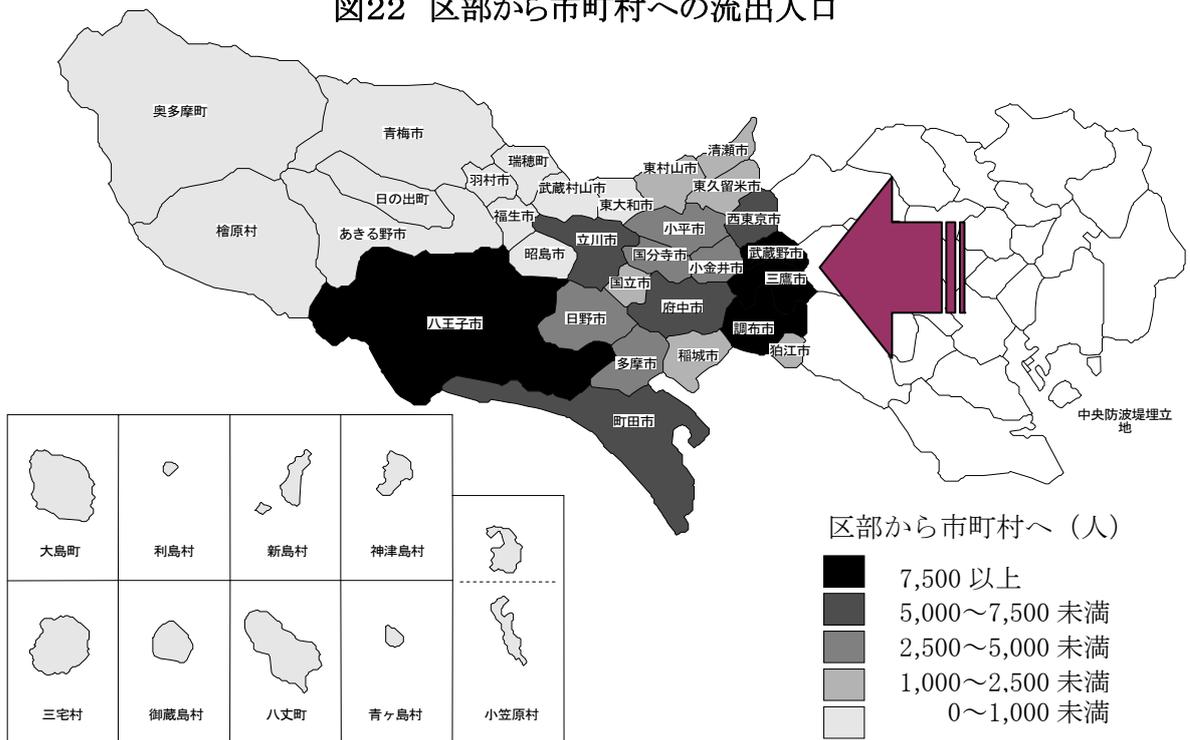


表4-4 区部から市町村へ (人)

順位	市町村	流出人口
1	武蔵野市	16,276
2	八王子市	12,417
3	調布市	9,711
4	三鷹市	8,289
5	府中市	6,892

図22 区部から市町村への流出人口



## 5 通勤者（15歳以上）・通学者の移動状況

＝通勤・通学者による移動人口は 899 万人＝

東京都の通勤・通学による移動人口は 8,990,569 人となり、その内訳は通勤者 7,292,539 人、通学者 1,698,030 人となっている。

東京都に常住している通勤・通学者は 6,099,457 人となっている。

都内で移動している通勤・通学者は、自区市町村 2,409,046 人、他の区市町村 3,216,024 人、他道府県へ通勤・通学 474,387 人となっている。また、他道府県から通勤・通学している者は 2,891,112 人となっている。

(表 5、統計表第 7 表)

表5 東京都の移動状況

(人)

項目	移動人口	東京都(各地域)に常住				他道府県に常住	
		総数	都内で通勤・通学		他道府県へ 通勤・通学	他道府県から 通勤・通学	
			自区市町村※	他の区市町村			
東京都	8,990,569	6,099,457	2,409,046	3,216,024	474,387	2,891,112	
通勤者	7,292,539	4,727,411	1,516,594	2,807,278	403,539	2,565,128	
通学者	1,698,030	1,372,046	892,452	408,746	70,848	325,984	
うち15歳以上	880,056	578,817	166,517	349,305	62,995	301,239	
区	6,612,440	3,985,998	1,545,301	2,140,604	300,093	2,626,442	
通勤者	5,513,420	3,141,348	1,004,024	1,885,169	252,155	2,372,072	
通学者	1,099,020	844,650	541,277	255,435	47,938	254,370	
うち15歳以上	584,191	350,374	95,978	212,040	42,356	233,817	
市	2,330,079	2,068,578	836,309	1,059,793	172,476	261,501	
通勤者	1,740,678	1,550,769	492,274	908,669	149,826	189,909	
通学者	589,401	517,809	344,035	151,124	22,650	71,592	
うち15歳以上	292,373	224,960	69,366	135,201	20,393	67,413	
郡島部	48,050	44,881	27,436	15,627	1,818	3,169	
通勤者	38,441	35,294	20,296	13,440	1,558	3,147	
通学者	9,609	9,587	7,140	2,187	260	22	
うち15歳以上	3,492	3,483	1,173	2,064	246	9	

※本表の数値には自宅就業者を含まない。

## 6 産業別就業者（15歳以上）

### ＝第3次産業就業者は600万人＝

昼間就業者 8,174,125 人のうち第1次産業就業者は 23,253 人、第2次産業就業者は 1,282,857 人、第3次産業就業者は 6,003,837 人となっている。

昼間就業者を産業別に見ると、卸売業・小売業の 1,316,448 人が最も多く、次いで製造業 821,116 人、情報通信業 750,060 人、サービス業（他に分類されないもの）563,333 人、医療、福祉 555,758 人の順となっている。

夜間就業者を産業別に見ると、卸売業・小売業の 912,689 人が最も多く、次いで製造業 587,973 人、医療、福祉 480,574 人、情報通信業 418,736 人、サービス業（他に分類されないもの）392,010 人の順となっている。

昼夜間就業者比率を見ると、情報通信業の 179.1 が最も高く、次いで金融業・保険業 167.9、鉱業 164.5 の順となっている。

（表6、統計表第8表）

表6 産業別昼間・夜間就業者

（人）

産業	昼間就業者	流入通勤者	流出通勤者	夜間就業者	昼夜間 就業者比率
<b>総数</b>	<b>8,174,125</b>	<b>2,565,128</b>	<b>403,539</b>	<b>6,012,536</b>	<b>136.0</b>
<b>第1次産業</b>	<b>23,253</b>	<b>1,545</b>	<b>692</b>	<b>22,400</b>	<b>103.8</b>
農業	21,772	1,224	598	21,146	103.0
林業	610	113	75	572	106.6
漁業	871	208	19	682	127.7
<b>第2次産業</b>	<b>1,282,857</b>	<b>478,206</b>	<b>107,465</b>	<b>912,116</b>	<b>140.6</b>
鉱業	1,977	825	50	1,202	164.5
建設業	459,764	163,973	27,150	322,941	142.4
製造業	821,116	313,408	80,265	587,973	139.7
<b>第3次産業</b>	<b>6,003,837</b>	<b>2,035,391</b>	<b>287,877</b>	<b>4,256,323</b>	<b>141.1</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	30,282	13,315	2,105	19,072	158.8
情報通信業	750,060	356,878	25,554	418,736	179.1
運輸業、郵便業	398,296	148,572	29,297	279,021	142.7
卸売業、売業	1,316,448	465,239	61,480	912,689	144.2
金融業、保険業	369,088	162,501	13,238	219,825	167.9
不動産業、物品賃貸業	270,701	76,230	9,992	204,463	132.4
学術研究、専門・技術サービス業	454,610	159,961	20,180	314,829	144.4
宿泊業、飲食サービス業	450,888	101,304	14,516	364,100	123.8
生活関連サービス業、娯楽業	265,294	69,156	14,991	211,129	125.7
教育、学習支援業	323,599	92,580	29,911	260,930	124.0
医療、福祉	555,758	108,576	33,392	480,574	115.6
複合サービス事業	19,035	4,341	567	15,261	124.7
サービス業（他に分類されないもの）	563,333	193,630	22,307	392,010	143.7
公務（他に分類されないもの）	236,445	83,108	10,347	163,684	144.5
分類不能の産業	864,178	49,986	7,505	821,697	105.2

## 7 男女、年齢別昼間・夜間人口、就業者（15歳以上）

＝昼夜間人口比率は、男性が125.5、女性が111.4＝

### （1）男女・年齢別構成

東京都の昼間人口を男女別に見ると、男性8,173,306人、女性7,402,824人となり、夜間人口は男性6,512,110人、女性6,647,278人となっている。昼夜間人口比率は男性125.5、女性111.4となっている。

男女、年齢別昼夜間人口比率は、男性は55～59歳の141.9が最も高く、次いで50～54歳141.7、45～49歳141.2の順となっており、女性は20～24歳の134.2が最も高く、次いで25～29歳125.9、15～19歳125.5の順となっている。

昼間就業者を男女別に見ると、男性4,994,395人、女性3,179,730人となり、夜間就業者については男性3,460,120人、女性2,552,416人となっている。

男女、年齢別昼夜間就業者比率は、男性は55～59歳の153.1が最も高く、次いで45～49歳152.3、50～54歳152.1の順となっており、女性は25～29歳の140.7が最も高く、次いで20～24歳139.5、30～34歳136.6の順となっている。

（表7-1～2、図23～24、統計表第9表）

表7-1 年齢、男女別昼間・夜間人口、昼夜間人口比率 (人)

	男			女		
	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
総数※	8,173,306	6,512,110	125.5	7,402,824	6,647,278	111.4
15歳未満	762,784	755,778	100.9	731,496	721,593	101.4
15～19歳	332,165	277,669	119.6	337,525	268,904	125.5
20～24歳	529,329	402,472	131.5	514,705	383,439	134.2
25～29歳	619,841	487,772	127.1	581,084	461,582	125.9
30～34歳	706,480	532,686	132.6	612,201	506,082	121.0
35～39歳	815,976	594,971	137.1	663,489	569,086	116.6
40～44歳	752,632	541,168	139.1	581,169	512,064	113.5
45～49歳	660,136	467,659	141.2	489,230	437,902	111.7
50～54歳	538,376	379,997	141.7	396,139	360,094	110.0
55～59歳	549,208	387,172	141.9	404,651	373,592	108.3
60～64歳	592,711	449,665	131.8	480,087	456,249	105.2
65～69歳	419,131	364,786	114.9	416,312	406,610	102.4
70～74歳	315,854	298,675	105.8	359,535	356,256	100.9
75～79歳	241,832	236,497	102.3	309,045	308,057	100.3
80歳以上	233,253	231,545	100.7	440,193	439,805	100.1

※ 総数不詳を含む。

表7-2 年齢、男女別昼間・夜間就業者、昼夜間就業者比率 (人)

	男			女		
	昼間就業者	夜間就業者	昼夜間就業者比率	昼間就業者	夜間就業者	昼夜間就業者比率
総数	4,994,395	3,460,120	144.3	3,179,730	2,552,416	124.6
15～19歳	40,054	33,019	121.3	44,354	35,199	126.0
20～24歳	247,649	184,967	133.9	273,061	195,682	139.5
25～29歳	448,545	322,133	139.2	403,642	286,927	140.7
30～34歳	557,165	384,704	144.8	393,101	287,856	136.6
35～39歳	668,279	447,815	149.2	402,281	308,389	130.4
40～44歳	629,684	418,460	150.5	358,112	289,266	123.8
45～49歳	560,368	367,998	152.3	314,692	263,562	119.4
50～54歳	462,400	304,104	152.1	255,299	219,365	116.4
55～59歳	466,760	304,801	153.1	241,172	210,192	114.7
60～64歳	453,206	310,286	146.1	230,950	207,198	111.5
65～69歳	245,594	191,320	128.4	135,440	125,774	107.7
70～74歳	120,242	103,088	116.6	68,982	65,727	105.0
75～79歳	59,954	54,631	109.7	34,162	33,179	103.0
80歳以上	34,495	32,794	105.2	24,482	24,100	101.6

図23 年齢、男女別昼間・夜間人口

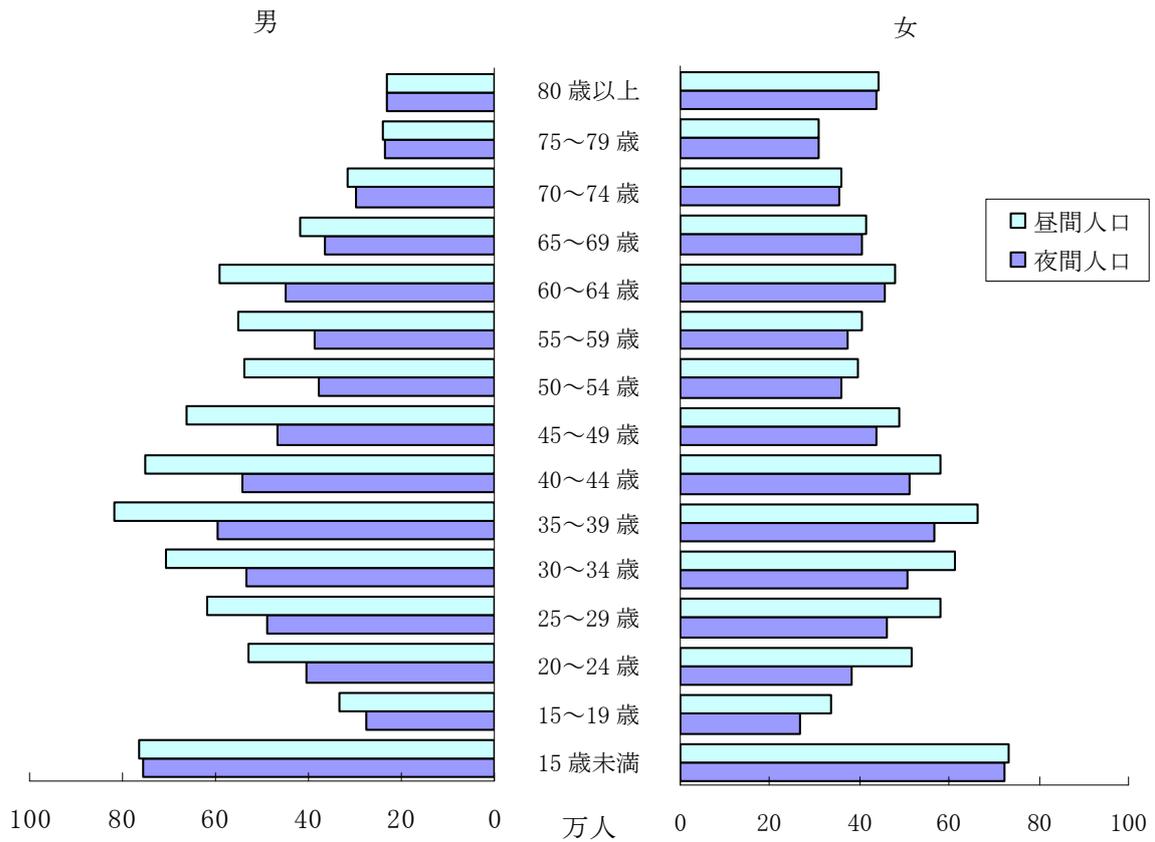
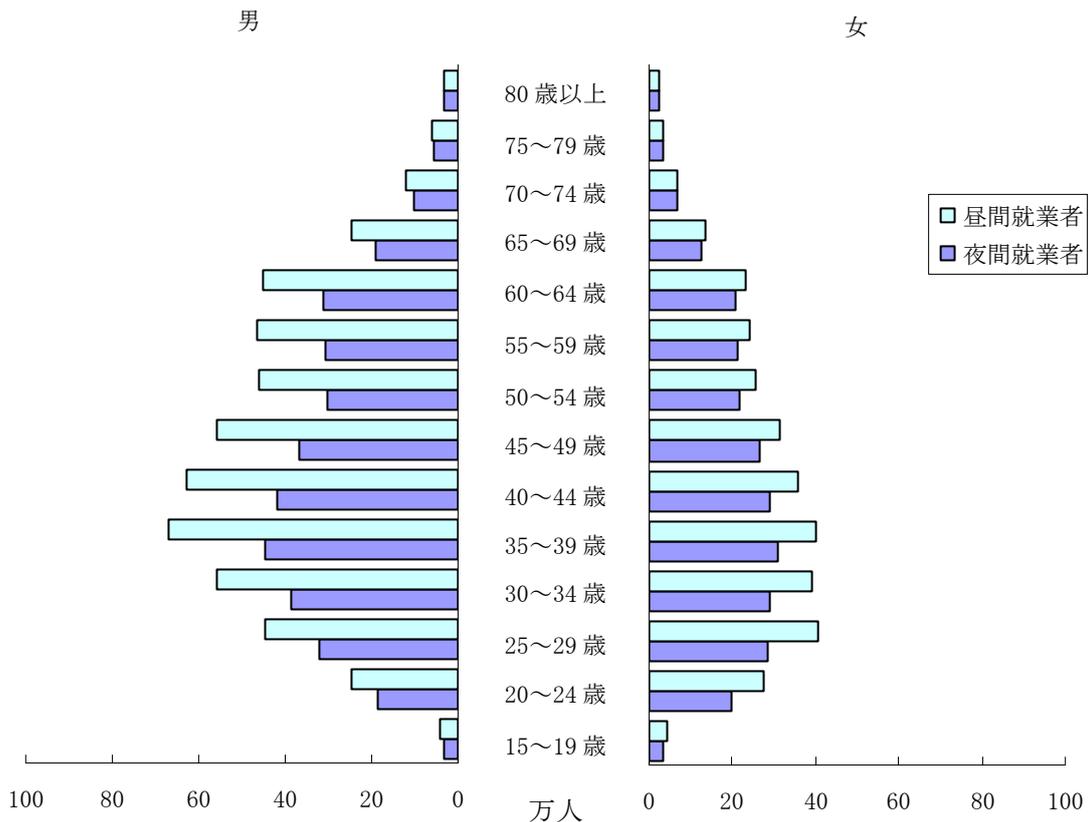


図24 年齢、男女別昼間・夜間就業者



## 8 利用交通手段

＝「鉄道・電車」だけの利用は 44.5%＝

東京都の自宅外通勤者（15歳以上）・通学者（15歳以上）の利用交通手段の総数は5,655,675人となり、利用交通手段が1種類の割合を見ると、「鉄道・電車」の44.5%が最も高く、次いで「オートバイ又は自転車」16.5%、「自家用車」9.4%となっている。

地域別で見ると、区部では、「鉄道・電車」の50.7%が最も高く、次いで「オートバイ又は自転車」16.2%、「徒歩のみ」9.1%となっている。

市部では、「鉄道・電車」の33.1%が最も高く、次いで「オートバイ又は自転車」17.2%、「自家用車」15.7%となっている。

郡島部では、「自家用車」の53.4%が最も高く、次いで「オートバイ又は自転車」12.8%、「徒歩」10.7%となっている。

（表8、図25～26、統計表第10表）

表8 地域別自宅外通勤者(15歳以上)・通学者(15歳以上)の利用者数及び割合

(人、%)

地域	総数 ※	利用交通手段が1種類						利用交通手段が2種類			利用交通手段が3種類以上
		総数	うち 徒歩のみ	うち 鉄道・電車	うち 乗合バス	うち 自家用車	うち オートバイ 又は 自転車	総数	うち 鉄道・電車 及び 乗合バス	うち 鉄道・電車 及び オートバイ 又は 自転車	
<b>東京都</b>	<b>5,655,675</b>	<b>4,409,974</b>	<b>459,632</b>	<b>2,370,795</b>	<b>132,177</b>	<b>500,782</b>	<b>881,162</b>	<b>828,811</b>	<b>388,368</b>	<b>306,795</b>	<b>87,384</b>
	(100.0)	(82.8)	(8.6)	(44.5)	(2.5)	(9.4)	(16.5)	(15.6)	(7.3)	(5.8)	(1.6)
区部	3,739,935	2,993,102	319,225	1,776,293	86,745	199,994	568,834	463,755	208,542	178,799	45,242
	(100.0)	(85.5)	(9.1)	(50.7)	(2.5)	(5.7)	(16.2)	(13.2)	(6.0)	(5.1)	(1.3)
市部	1,876,233	1,382,419	136,263	591,364	45,015	280,042	307,364	361,183	178,907	126,596	41,615
	(100.0)	(77.4)	(7.6)	(33.1)	(2.5)	(15.7)	(17.2)	(20.2)	(10.0)	(7.1)	(2.3)
郡島部	39,507	34,453	4,144	3,138	417	20,746	4,964	3,873	919	1,400	527
	(100.0)	(88.7)	(10.7)	(8.1)	(1.1)	(53.4)	(12.8)	(10.0)	(2.4)	(3.6)	(1.4)

※ 総数不詳を含む。

図25 「鉄道・電車」だけの利用者数

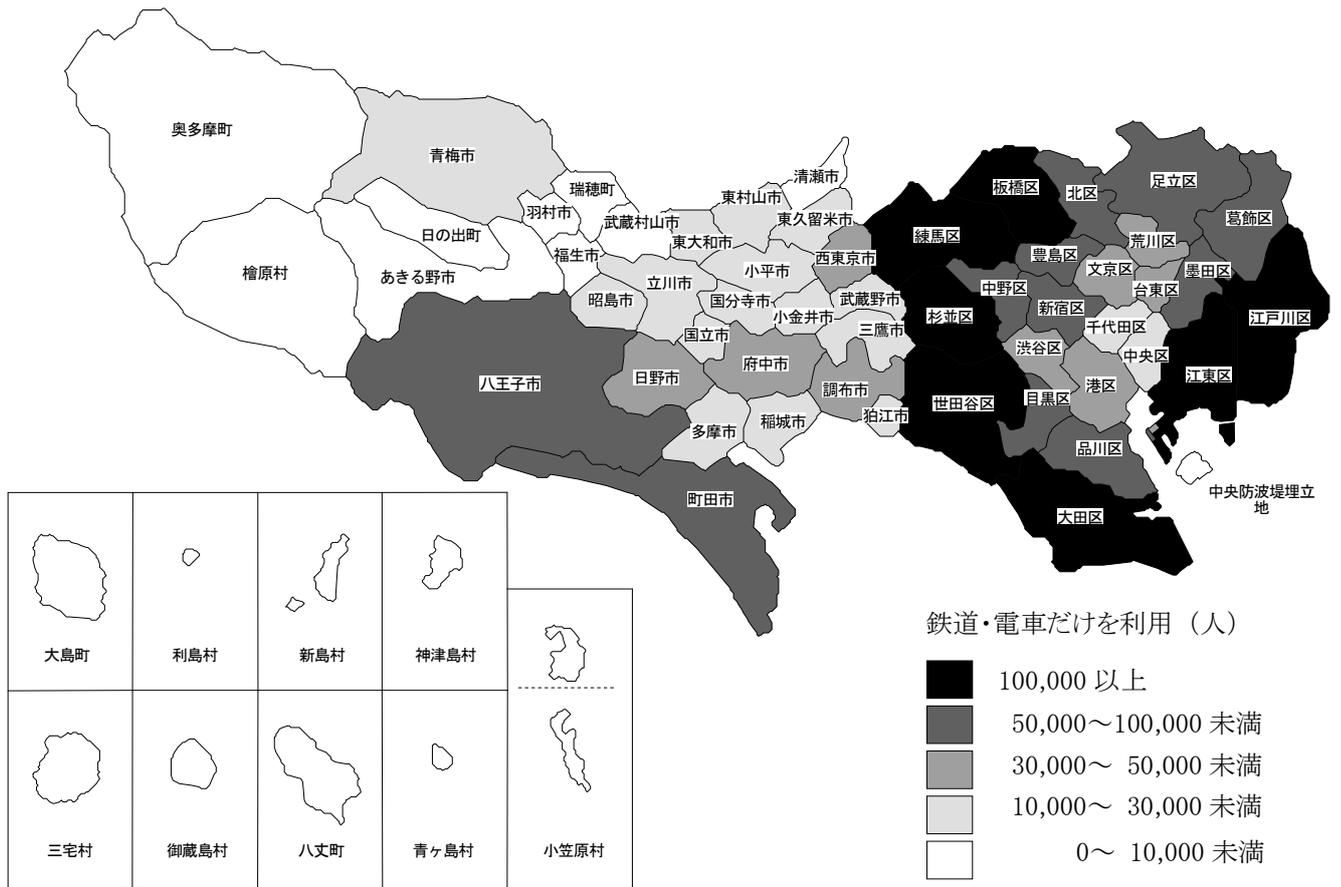


図26 「自家用車」だけの利用者数

